

一人一人の想いが分かり、会場全体が応援ムードに!!

まち活フォーラム 2018 ～ここでつながるおながわの

輪

立春の暖かな日差しのなか、町内で取り組まれているまちづくり活動者の発表を通じて、それぞれの活動への理解と連携を深める「まち活フォーラム 2018 ～ここでつながるおながわの輪～」を開催しました。

町内でまちづくり活動をしている6名の方から発表の後は、ゲストから応援メッセージをいただきました。

参加者は、一人一人のストーリーに耳を傾けた後、交流タイムで発表者に応援のメッセージを伝えました。熱い思いが伝わり、会場全体が応援ムードに包まれた会になりました。

- ◇ 平成 30 年 2 月 4 日(日)
- ◇ 女川町まちなか交流館
- ◇ 参加者 30 名

開催報告

会場のみなさまには、応援メッセージを書いてもらい、交流タイムに直接お渡し♪

～当日の流れ～

- (1) あいさつ
- (2) 基調発表 桜地蔵のものがたり
- (3) ワタシの“まち活”発表
 - ・あ～らだてのこみち
 - ・ハーブガーデンプロジェクト・ファミリア
 - ・大原北区「ふれあいカフェ」
 - ・女川町子育て応援サークル マザーズリング
 - ・スターダスト・ページェント「海ぼたる」
- (4) 交流タイム
- (5) まとめ



●事務局あいさつ:

女川町の復興計画は終盤を迎えています。まち活としても課題になっているのが、立ち上がった活動が平常時に移行してもきちんと持続して、周囲に発展していくことと考えています。活動者の思いや悩みを共有して、ご来場のみなさまにもサポーターとなっただき、一緒に考えていくことでその輪が広がっていくといいと考えています。

●コーディネーター：遠藤ちえさん

(地域社会デザインラボ 代表)

いろいろな活動を通して、女川町全体が楽しく、賑やかになっていくと思います。ものを買うだけの消費する町民ではなく、自分で創造する町民、自分だけが楽しむのではなく、地域の方と一緒に楽しむ町民になってほしいです。いろんな人を巻き込むことで、女川町に来る方も、女川町の魅力も増えますよ!



発表タイム



交流タイム



♥震災前のようにたくさんの桜が咲くまちにしたい♥ 女川桜守りの会 (藤中郁生さん)

- 津波で幹だけ残って流されてしまった桜に、翌月3輪花が咲いたのを見つけた、何とか生かしてあげたい…と思ったのがきっかけです。
 - 何とかしようと中学校のみなさんが水を掛けたり、花壇を置いたりしました。けれども、塩害のため、桜は枯れてしまいました。伐採するしかなかった幹から、桜地蔵を掘り出し、レンガみち脇に安置しています。
 - “桜でいっぱいのもち”を何とかして実現したいです。見頃になるのは50年後、100年後なので、孫の世代が楽しんでくれればいいと思っています。「トンネルを抜けたら桜のもち」がスローガンです。1,000年にわたって植樹を続ける10万本の桜計画という壮大な話です。
 - 中学生発案の「いのちの石碑」の横に毎年咲く桜を見ながら石碑を見て気持ちを新たにできるように、桜を植えています。
- 課題…世代交代です。我々もそんなに長く生きられるわけではないので、次の世代に伝えていくしくみを作っていくかと思っています。



線路脇での桜植樹→



コメント

駅ができた後、線路沿いに桜並木をつくらうとたくさんの住民が集まってきました。作業中電車に向かって手を振る姿を見たとき、涙がでる思いでした。住民の心をまとめる活動をいかに自分事と捉えるか、だと思います。

▶矢竹拓さん/女川町社会福祉協議会

行政ではない人達が独立独歩で進めている活動を、いかにまちの宝として引き継いでいくか、みんなで考えていきたいです。

▶末祐介さん/女川町復興まちづくりコーディネーターJV

↓津波桜



参加者が
良いと思ったこと

- ・自分たちがいなくなった未来に残すために今やるといいこと。素晴らしい。
- ・いのちの石碑の横に桜を植えて毎春、心新たに震災の教訓を感じる試みとその重要性にとっても感銘を受けました。
- ・想いを発信し、繋がったところがすごいと思います。

参加者からの
アイデア

↑レンガみちに安置
されている桜咲く地蔵

- ・町内外にもっともっとアピールして下さい。応援しています。
- ・桜を植えた後の女川町の街並みなど、未来写真があるとイメージしやすいのでは？
- ・学校の委員会活動とタイアップすると良いと思います。



♡コミュニティガーデンから…女川らしい風景をみんなで創りたい♡ あ～らだての小みち (木村繁子さん)



○2年前に自宅を再建して自宅の庭づくりを考えている時に、緑のまち活に参加し、昨年5月から**地域の人たちと、定期的に公園のお手入れ**をしています。
 11月には桜守りの会から頂いた桜を植樹しました。12月から3月頃まではお休み期間なので、春から活動開始予定です。まだ1年経っていません。
 ○公園が**子ども達や地域の皆さんの散歩道**になりました。
 ○活動の秘訣は、「**来るものは拒まず、去るものは追わず、戻るものにはあたたかく**」です。
 課題…町の他の地区にも広げたいこと。そして、鹿対策です。

コメント

自分の手で作業し、働きかけていくということが、その場所を気にするきっかけになります。是非、広げて行ってほしいです。他地区と競い合っていると良いですね！

▶末祐介さん/女川町復興まちづくりコーディネーターJV!



↓桜を植樹しました



←活動の様子

～交流タイム～



↑お散歩の休憩場所にもなっています

参加者が 良いと思ったこと

- ・公園が緑でいっぱいになったらいいなと思いました。
- ・ガーデニングを通して交流が広がって行くのは素敵です。
- ・仲間のペースを尊重しているのが大変いいと思う。花や緑は人の心を癒します。これからも頑張ってください。

参加者からの アイデア

- ・コミュニティガーデンの集いはとても人のぬくもりづくりに大切かと思います。
- ・まだ、町内の方でも場所がどこか分からない人が多い。道路から見える看板をだしたらいいのでは？
- ・鹿対策について、奈良県がどのような取り組みをしているのか追ってみるのはどうでしょう。



♥植物を通じて家族のようにつながりたい♥

ハーブガーデンプロジェクト・ファミリア*1 (佐藤伶奈さん)

*1:ファミリア:スペイン語で家族の意味



○ハーブガーデンプロジェクト・ファミリア

まちのまんなかにある宿泊施設エルファロの一角に**町民の誰もがみんな参加、協力できるハーブガーデンを作り上げるというプロジェクト**です。昨年12月からスタートしました。海のまちのガーデンを女川に住む町民ならではのアイデアで創りたいです。泊まったお客様にも、町民のおもてなしが伝わります。町民が楽しめるということと、女川に来たお客様も楽しめるという、一石二鳥のプロジェクトです。

○みんな震災で生き残った仲間

今、まちに住む人からすると本当に住みやすいか、便利の良いまちか、楽しいまちか考えます。**女川を好きになって欲しいから、誇りを持てるまちにするために、地域の人に協力してもらって小さなことからまちの力を伸ばしたいです。**

○地域みんなが私を育ててくれたから、このまちが好きに

震災がきっかけで女川町に戻ってきました。小さい頃は、まちのクリーン作戦で早朝からゴミ拾いをしたり、子供会でまちの花壇に花を植えたり、老人施設で踊りや歌を演奏したりなど、子供の頃の記憶でも多くのまちの方達とふれあい、**まちのみんなが私を育ててくれた思いがあります。まちが好きになって、誇りを持てるまちになりました。**



コメント

まったく動かない水面にも、小さな石がポンと入れば、その水紋は広がっていくような気がします。**意識を変えるということは簡単なことではないけれど、難しくもないのかも…ね!**

▶ 佐藤敏郎さん/元女川第一中学校教員



ファミリアの様子



～交流タイム～

参加者が
良いと思ったこと

- ・町民の意識を変えるという根本的な指摘は響きました。
- ・「町民だれもが参加できる」が素晴らしい！女川町の“ファミリア”になるといいね！
- ・町の方々の素敵な居場所になるように応援しています！！

参加者からの
アイデア

- ・駅前店舗の在り方など再度町全体の意識が向上していける様になればと思います。
- ・ハーブの勉強会や活動にも町外の方も参加出来たらいいと思います！！
- ・若い人が町への想いで活動しているのは、感動します。先輩の方々の意見を参考に活動してください。



♥地域のコミュニティや居場所をつくっています♥

大原北区ふれあいカフェ (坂本礼子さん)



- 社会福祉協議会が運営していたカフェが退く時、住民から「お客様としてがんばっていくから、是非、続けて欲しい」との後押しで、区長さん他のみなさんと、カフェを引き継ぐことになりました。
 - 一人暮らしで、日中どこにも行くところがない、誰とも喋らないという方がとても多いです。気軽に立ち寄り、お話しする場所が必要だと思います。
 - 年金生活の方も気軽に立ち寄れる料金でお迎えしています。
 - 毎日、ノートをつけて、お客様の見守りにも活用しています。
- 課題…他の地区にも集いの場所があったら良いこと。そして、若い方も、ぜひ顔を出して、話相手になってもらえたら、嬉しいです。

コメント

元あったコミュニティが変わらざるを得ない事情のある新しい住宅での日常生活において、とても大切な取り組みだと思います。自分にも役立つことがあれば！

▶佐藤敏郎さん/元女川第一中学校教員



カフェの様子

～交流タイム～



参加者が
良いと思ったこと

- ・高齢者が多くなる時代に不可欠ですね。楽しそうに話していただきましたが、大変かと思います。
- ・とてもいい取り組みだと思います。どこの地区でも必要だと思います。
- ・来客者の情報をノートに記載して年配者の見守りをしていることにとっても感銘を受けました。

参加者からの
アイデア

- ・地元に戻り皆さんにアピールします。若い人も集える様、アピール頑張ってください。
- ・佐藤敏郎先生の昭和喫茶を開催してはどうでしょう。
- ・若い人を巻き込み、社会福祉協議会さんに相談して、連携を図ると良いかと思います。



♥地域にいるお母さん方の子育てを応援したい♥

女川町子育て応援サークル マザーズリング (澤田洋美さん)



- 前任から声を掛けられ始めようとした矢先、震災が起きました。その友人達を含め2名が亡くなりました。自分も石巻に引越し、女川に戻ることもないだろうと思う時期もありました。震災から1年後、女川に戻ってきて、メンバーから活動をもう一度やりたいという希望があり、平成25年から少しずつ活動をするようになりました。
 - そして、メンバー達が率先して親子で一緒に楽しむ企画をしてきました。
 - 年を追うごとにメンバーが抜けたり、引っ越ししたり、仕事をもつようになって、それぞれサークルに時間をさくことが難しくなっており、現在のメンバーは11名です。直接集まり話さなくてもSNSで情報共有ができ、助かっています。
 - 保育所のお着替え箱や託児付ヨガ教室で子育てママを応援中です。
- 課題…お金のやりくりは手探りで、助成金を扱う余裕がなくなっており、講師料はボランティアもしくは少額です。できる人ができる分の企画を開催しています。単独での企画が難しい場合、まち活とコラボしたり、健康福祉課、子育て支援センターと共催しました。

コメント

社協のシニア世代の託児ボランティアは、多世代交流にもなっています！みんなで応援できるようなしくみづくり、アイデア出しなど、考えていきたいです！ ▶矢竹拓さん/女川町社会福祉協議会



←別室託児付
ヨガレッスン↓



保育所お着替え箱
いちご箱カバーリング講習会→

～交流タイム～

参加者が
良いと思ったこと

- ・よくぞ引き継ぎ、活動してくれました！
- ・継続されてきたことに敬意を表します。
- ・今までの活動はみんなの笑顔の元になりました。
- ・御苦労されたことが絆を深めていると感じました。子育て支援は、地域の住民人との関わりが重要です。頑張ってください。

参加者からの
アイデア

- ・町の方の協力体制はどのようなのでしょうか？町の方をもっと動くべきだと思います。
- ・子育て不安は仲間づくりから。そんな場所を作ってほしいです。
- ・活動費の助成で苦労されているようなので、何かの手立てで町が助けると良いですね。



♥冬の女川を明るく照らしたい♥

スターダスト・ページェント「海ぼたる」(中嶋憲治さん)



- 平成 10 年に始まり、**今回で 20 回目になります。**「海ぼたる」は、あくまでもイルミネーションが主役なのであまり表に出てきませんでした。
 - どうやったらはじめられるか？**ということをいろいろ相談したのですが、補助金などをつかうとやはり足かせができてしまうので、**個人から募金を集めよう**ということになり、**募金をもとに活動**しています。
 - 世話人から友達の輪を広げていきました。
 - 震災で、公民館の地下にしまってあった電球や飾り付けは全て流されてしまいました。その時、東京のイベント会社の知り合いがいるという方から、一度つかったイルミネーション・ツリーを貰い受けたものが現在のメインツリーです。点灯場所も復興工事に伴い 3 年程転々とし、ようやく駅前に帰ってきました。
- 課題…次世代への引き継ぎと、電飾の保管場所です。

コメント

1 年間を通じて世話をされている方一人一人の思いで結実したものが冬に灯される「海ぼたる」の活動は、決して当たり前のことではありません。なんらかのかたちで関わりたいです！

▶阿部喜英さん/女川町観光協会会長/女川町まちづくり推進協議会委員



まちびらき後の「海ぼたる」



震災前

参加者が
良いと思ったこと

- ・20年間、絶やさず続けてこられたのはすごいと思います。
- ・2011 年に中止にならなかったときは感動しました。
- ・改めて、女川町には全国の皆様の力を頂いているんだと思いました。

参加者からの
アイデア

- ・若手層に声かけて参加してもらってはでしょうか。
- ・仮設を1つ残してそこに保管するのはどうでしょう。シンボリックな意味もあるかと思います。
- ・これからは次世代へのつなぎが大切かと感じます。若者が集まる場所等で声掛けしてはいいかでしょうか。



[総括コメント]

●女川町観光協会会長／
女川町まちづくり推進協議会委員
阿部喜英さん
無理をして疲弊してしまったのでは本末転倒になってしまうので、無理せず、まず自分達が一番楽しむことで、それが周りにも伝わり、活動が広がっていくと思います。
そして、地域への情報発信は、とても大切です。使えるツールは何でも使ってみましょう。「うみねこタイムズ」への掲載も協力できますよ。



●須田善明町長
人が来るから、まちの表情とか賑わいになります。人が行き交うことで、暖かいものとして感じることができます。
復興のハード部分が終わりに近づき、一番大切になっている“まち活”です。誰もがプレイヤーとなって活動できる町を目指していきます。



♥会場にてちょっとPR♥

出島のみなさん 出来ました！
が作った
出島の椿油



参加者のみなさんに、使い心地など、アンケートに協力いただきました。



「あ～らだての小みち」のみなさんによる作品展示

第2回 女川に恋して恋しちゃった写真展

～撮っぺし！見っぺし！語っぺし！～
まちなか交流館で町民参加の写真展が開催されました。

連携
開催



♥第2回メモリアルフォト
60歳以上の女性を対象とした写真撮影企画も、写真展に参加！



～お知らせ～

第2回 お地藏さまの市

子どもからお年寄りまで、気軽に参加できるフリーマーケットを開催します
活動の資金づくりに困っている貴方！
自慢の品物、自宅の不要となったものなど、並べてみませんか。

日程：復幸祭 3/25(日)
場所：桜咲く地蔵の通り近く
(「ダイシン&カフェさくら」の前辺り)
主催：地蔵市実行委員会
連絡先：下記問合先にご確認ください

～おわりに～

発表の皆さん♥最初の緊張した様子が、交流タイムの後は、グッと笑顔になっていました。
それぞれの想いがたくさん詰まった活動を、地域の人に知ってもらい、直接メッセージをもらって、たくさんの気づきがあったと思います。自分たちだけでない地域の活動に広がっていくと良いですね。

発行元：女川町まちづくり推進協議会事務局(役場復興推進課復興調整係)

問合せ先：TEL:54-3131 内線 291 Mail: fukko7@town.onagawa.lg.jp

